

令和5年度 第2回三木市文化財保護審議会次第

日 時：令和6年3月26日（火）

午後1時30分～4時

場 所：みき歴史資料館 3階 講座室

1 開 会

2 報告事項

- (1) 令和5年度文化財保護事業実績について【資料1】
- (2) 国指定史跡三木城本丸跡の発掘調査について【資料2】
- (3) 市指定史跡愛宕山古墳（下石野5号墳）の発掘調査について【資料3】

3 協議事項

- (1) 令和6年度文化財保護事業計画について【資料4】
- (2) 市指定文化財の指定計画について【資料5】（非公開）
- (3) 「六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め」の調査報告と今後の方針について【資料6】

4 その他

5 閉 会

三木市文化財保護審議会 委員名簿

	役職	氏 名	分 野	備考
1	会長	宮田 逸民	城郭史	再任
2	副会長	依藤 保	日本法制史	再任（公募）
3	委員	藤田 均	郷土史	再任
4	委員	伊賀なほゑ	中近世都市史	再任
5	委員	千種 浩	文化財保存	新任
6	委員	中久保 辰夫	考古学	新任
7	委員	山田 貴生	民俗	再任（公募）

※ 任 期 令和４年６月１日から令和６年５月３１日

令和 5 年度文化財保護事業実績について

1 事業計画

事業名	内 容	実施日	実 施 場 所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・ 令和 5 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・ 令和 6 年度文化財保護事業計画について他	10 月 27 日 3 月 26 日	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 近世絵図で歩く三木城跡 参加者 84 人	4 月 30 日	三木城跡
	歴史ウォーク② ホースランドパーク周辺付城跡コース 参加者 87 人	5 月 28 日	明石道峯構付城跡他
	歴史ウォーク③ 別所ゆめ街道コース 参加者 15 人	10 月 22 日	三木鉄道ふれあい館他
	歴史ウォーク④ 秀吉本陣跡コース 参加者 31 人	11 月 25 日	秀吉本陣跡他
	『三木の歴史』刊行記念ウォーク 下五ヶ町コース 参加者 16 人	12 月 23 日	旧玉置家住宅他
	歴史ウォーク⑤ 愛宕山古墳・正法寺古墳コース 参加者 24 人	3 月 10 日	愛宕山古墳他
	三木城本丸跡発掘調査体験イベント 参加者 30 人 見学者 12 人	11 月 18 日	三木城本丸跡
(2) みき歴史資料館	企画展① 細川町の祭り屋台展	4 月 22 日～ 6 月 25 日	みき歴史資料館

	来館者 2,994 人	(56 日間)	
	企画展② 播磨の鉄道風景～過ぎ去った時間を再現する～ 来館者 3,167 人	7 月 15 日～ 9 月 24 日 (62 日間)	みき歴史資料館
	企画展③ 地域の史料たち 7～三木の歴史～ 来館者 2,048 人	10 月 14 日～ 12 月 24 日 (61 日間)	みき歴史資料館
	企画展④ 三木の染形紙 来館者 2,352 人	1 月 27 日～ 3 月 17 日 (44 日間)	みき歴史資料館
	企画展特別講演会、歴史講座、体験教室	随時	みき歴史資料館
	歴史資料館協議会	10 月 19 日 3 月 15 日	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及び付城跡・土塁の整備	平井山ノ上付城跡危険木等伐採業務委託	6 月 27 日～ 7 月 14 日	平井山ノ上付城跡
	平井山ノ上付城跡ナラ枯れ伐採等業務委託	3 月 22 日～ 3 月 31 日	平井山ノ上付城跡
	発掘調査検討委員会	8月16日 11月22日	みき歴史資料館
	旧上の丸庁舎跡基礎撤去工事	10 月 17 日～ 11月20日	三木城二の丸跡
	三木城本丸跡確認調査	11 月 14 日～ 12月8日	三木城本丸跡
	旧上の丸庁舎周辺建物解体撤去工事	2月下旬～ 3月29日	三木城二の丸跡

埋蔵文化財発掘調査等	①包蔵地照会件数 407 件 ②届出件数 93 条 10 件 94 条 1 件 ③指導事項 慎重工事 7 件 工事立会 3 件 本発掘調査 0 件 未定 1 件 ※2 月末時点	4 月～3 月	市内
	確認調査 1 件 ※2 月末時点 大村宮カネ遺跡 調査原因 駐車場建設工事 調査面積 8 m ² 遺構・遺物なし	10 月 12 日	大村
	学術調査 1 件 愛宕山古墳（市指定史跡） ※調査主体 大阪大学	2 月 29 日～ 3 月 20 日	別所町下石野
埋蔵文化財維持・管理	遺跡管理除草作業 委託業者：（公社）三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安 2 号墳他
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4 月～3 月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施する。 調査ボランティア 4 人	6 月～3 月	市内

2 市指定文化財の指定

名称	種別	所有者	指定年月日
兵庫県立三木山森林公園のコバノミツバツツジ群落	天然記念物	兵庫県	令和 5 年 4 月 21 日

3 資料貸出

依頼者	資料名	目的	貸出日（期間）
㈱リゲル社	画像資料 平井山ノ上付城跡	『国史跡 戦国日本の城』に掲載するため	4 月 12 日

	測量図他 計4点		
奈良女子大学	高木18号墳 ガラス管玉他 計31点	日本列島におけるガラス玉の流通についての調査・研究のため	4月26日～7月26日
(株)グレイル	画像資料 朝日ヶ丘土塁写真 ほか 計3点	TJMOOK『今こそ行きたい信長、秀吉、家康の城』（宝島社）に掲載するため	5月2日
(株)朝日新聞出版	画像資料 三木合戦軍図写真	朝日新書『天下人の攻城戦』（朝日新聞出版）の帯の装丁デザインとして使用するため	6月26日
(株)NEXTEP	画像資料 三木合戦軍図写真	BSフジ「この歴史、おいくら？」に使用するため	7月7日
(株)KG 情報	画像資料 旧小河氏庭園写真	『SETOUCHI MINKA』に掲載するため	7月19日
(株)時事日本語社	画像資料 三木合戦軍図写真	『日本の辞世（仮題）』に掲載するため	8月10日
(株)TBS スパークル	画像資料 別所長治画像写真	BS-TBS「関口宏の一番新しい中世史」において使用するため	9月29日
兵庫県企画部地域振興課	画像資料 三木城・同付城 群・多重土塁の画像データ 計8点	兵庫県立兵庫津ミュージアム企画展「知られざる山城の魅力ー中世播磨250の山城ー」のパネル展示及びパンフレット、広報刊行物、ホームページ等に掲載するため	11月9日
姫路市立香寺公民館	令和5年度企画展「播磨の鉄道風景」で使用した歴史資料館所蔵の播但線等の写真等のパネル 計76点	講座「播磨楽学講座」の関連行事「播磨の鉄道展」において展示するため	12月13日～2月6日
(一社)日本総合検定資格センター	画像資料 三木城跡現況図、三木城本丸跡伝天守台写真	日本名城検定全国100選として日本名城検定テキストに掲載するため	2月15日
(株)法律文化社	画像資料 別所長治像、三木合戦軍図	『播磨・但馬・丹波・摂津・淡路の戦国史』（仮）に掲載するため	3月22日

4 講演等派遣事業

依頼元	内 容	講師	実施日	実施場所	参加者
善友会	「三木城跡発掘調査から見た三木の歴史」	金松誠	4月27日	市民活動センター	90人
大阪府高齢者大学校	武家政権700年・合戦史科「探訪・三木合戦の地を歩く」	金松誠	5月26日	三木城跡他	39人
第39回全国城郭研究者セミナー実行委員会・中世城郭研究会	第39回全国城郭研究者セミナー「三木城攻めの付城における雛壇状曲輪群について」	金松誠	8月6日	大正大学	240人
志染町公民館	いきいき（高齢者）教室&ゆうゆう（女性）セミナー「遺跡から見た三木合戦」	金松誠	8月17日	志染町公民館	28人
竹中半兵衛重治公顕彰会	平井山ノ上付城跡の案内	金松誠	8月27日	平井山ノ上付城跡	43人
三木市老人クラブ連合会教養部	まちづくり出前トーク「遺跡から見た三木合戦」	金松誠	9月26日	まなびの郷みずほ	81人
自由が丘公民館	高齢者教室 館外学習「歴史ウォーク 近世絵図で歩く三木城跡コース」	金松誠	10月17日	三木城跡他	14人
青山公民館	青山いきいきセミナー「戦国武将 松永久秀の実像」	金松誠	12月7日	青山公民館	7人
兵庫県学校厚生会東播支部	2023年度歴史教室「東播磨と三木合戦」	金松誠	12月13日	兵庫県学校厚生会東播活動センター	23人
三木市高齢者福祉センター	まちづくり出前トーク 高齢者生きがいセミナー「遺跡	金松誠	12月19日	高齢者福祉センター	15人

	から見た三木合戦」				
神姫バス・三木 甲冑倶楽部	兵庫・三木の歴史巡 りツアー「遺跡から 見た三木合戦」	金松誠	1月20日	みき歴史 資料館	20人
三木ロータリ ークラブ	令和5年度三木城 本丸跡の発掘調査 成果について	金松誠	3月1日	三木商工 会館	33人

5 図書の発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第38集 『明石道峯構付城跡発掘調査報告書』	三木市教育委員会	300部	3月31日

6 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
地 域 文 化 財 総 合 活 用 推 進 事 業	伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。 1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。 ・下町屋台保存会 支援内容 高欄掛け2枚・水引幕（龍目玉・ロープ取り替え）修理、後継者養成 ・栄町公民会 支援内容 高欄（跳ね高欄）・高欄金具メッキ修理 ・大手町屋台保存会 支援内容 鳴り太鼓修理 ・御坂神社御弓神事保存会 支援内容 磔（ゆがけ）新調 ・東條町公民会 支援内容 長胴太鼓修理（皮の張替）	4月～3月	市内

三木城本丸跡の発掘調査成果について



トライやる・ウィーク 発掘調査体験

1 発掘調査計画

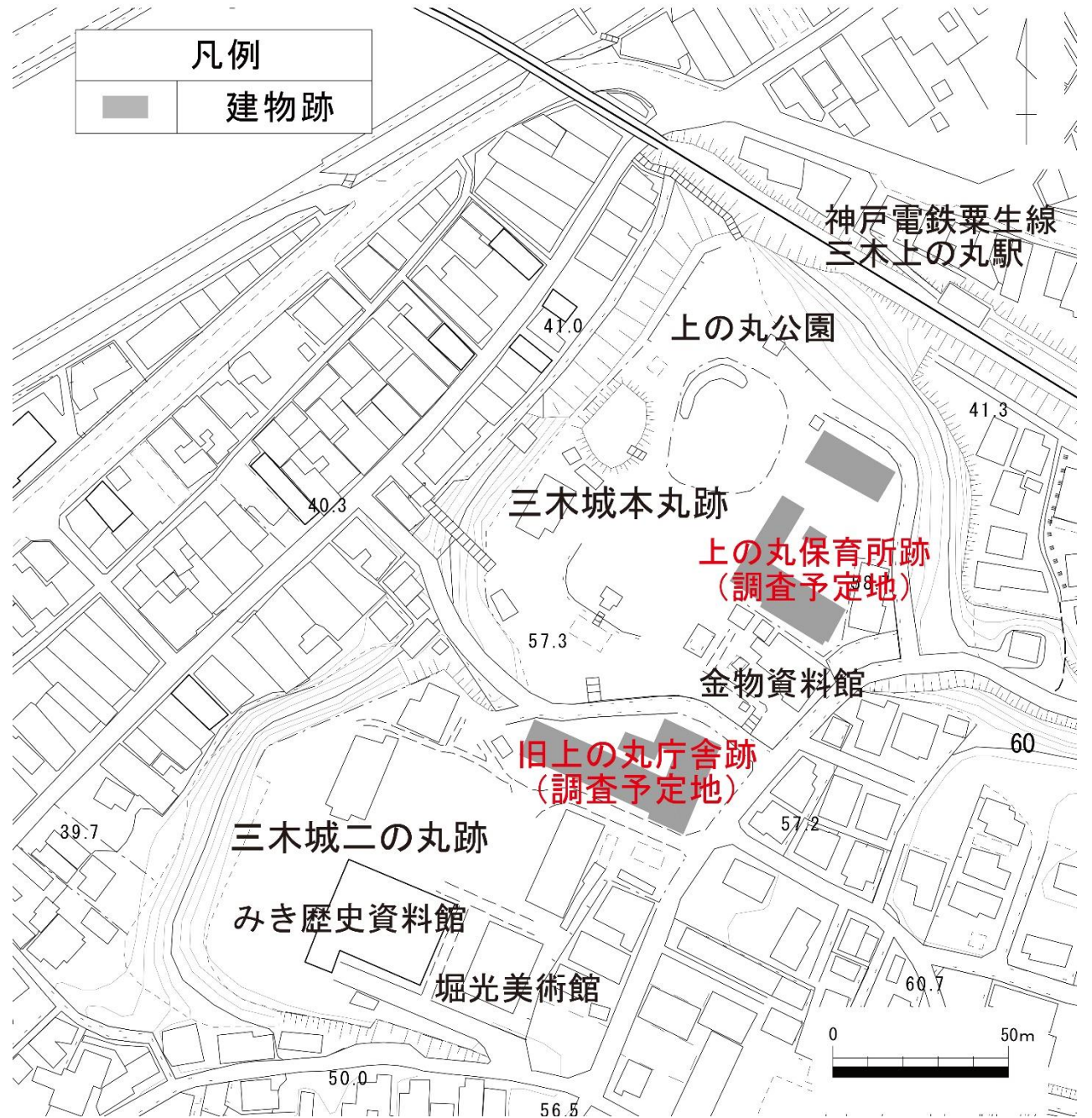
(1) 調査目的

国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」のうち、中核をなす三木城本丸跡・二の丸跡について、整備基本計画に則り、遺構の確認や整備を行うに当たり、発掘調査を実施する。

調査に当たっては、検討委員会を設置した上で、計画的な調査研究を推進するものとする。

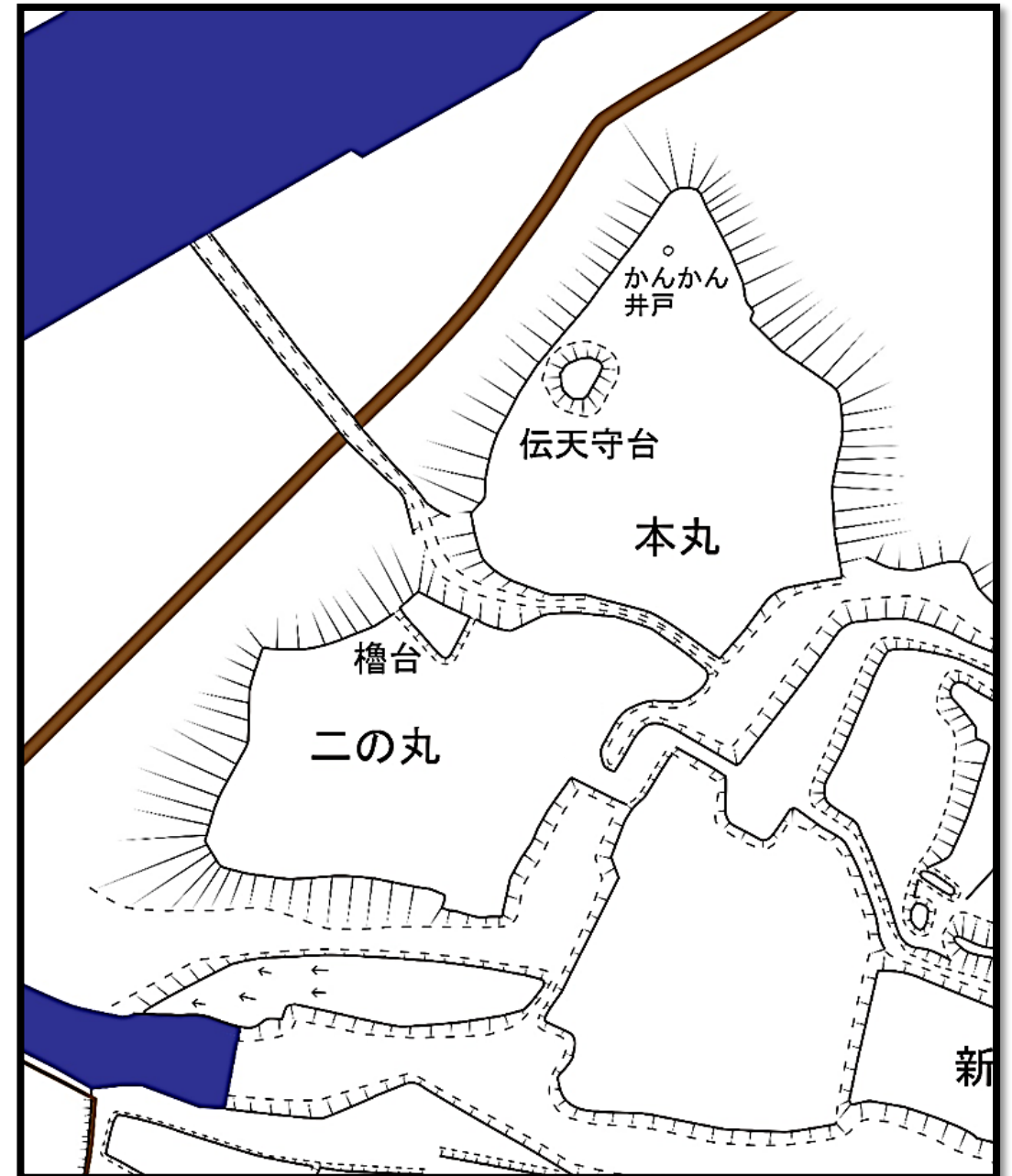
(2) 調査予定期間

- 現地調査
令和4年度～令和6年度
- 調査報告書作成
令和7年度

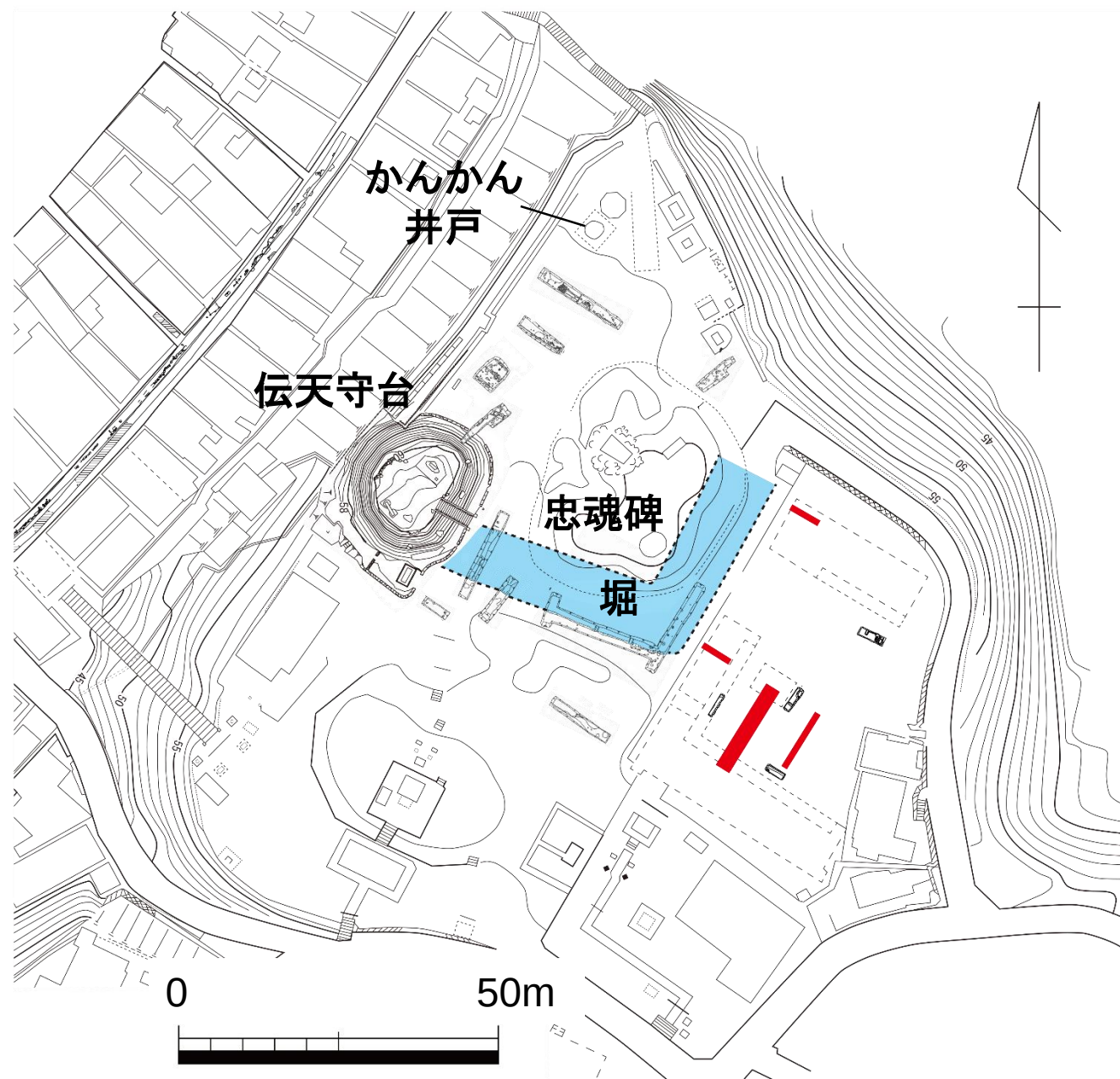


(3) 本丸跡

- 標高61m、比高20m。台地北西端に位置。
- 三木合戦最終段階の天正8年(1580)1月11日には「鷲山と申構」と「堀一重」を挟んだ「三木本城」を残すのみとなり、「別所小三郎丸」が最後の攻略対象となった(『反町文書』)。
- 別所長治・弟友之・叔父賀相等が籠るも、羽柴秀吉の降伏勧告を受諾し、17日に長治他一族等が切腹の上、開城した。
- この「三木本城」は、本丸と二の丸のことを指すとみられ、このうち「別所小三郎丸」が本丸であったと考えられる。

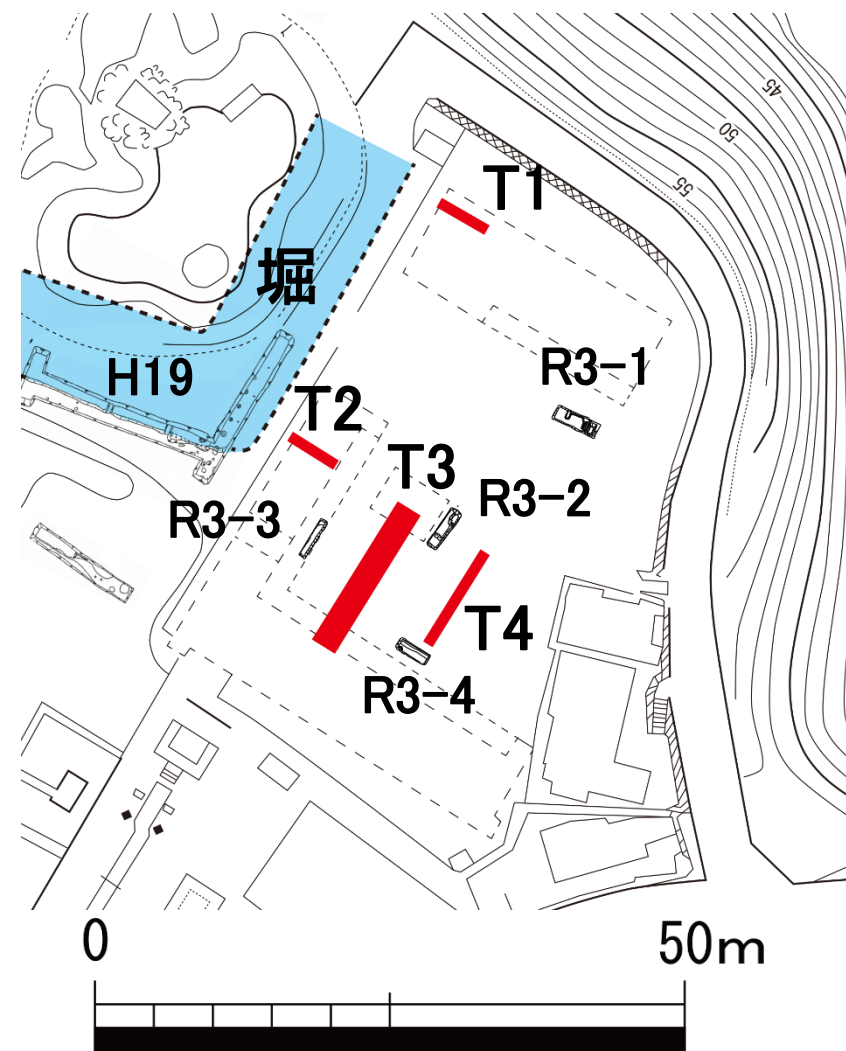


- 西辺中央には伝天守台、北西端付近にかんかん井戸が現存
- 平成2・15・18・19・令和3年度に発掘調査
- 瓦葺き礎石建物が存在
- 内部を堀で区画
- 伝天守台は堀が埋まった後に造成
- 遺物は本丸・二の丸ともに土師器 皿・瓦が多くを占め、備前焼、中国産の磁器、瀬戸美濃焼なども出土



2 令和5年度三木城本丸跡発掘調査の概要

- 調査目的
整備基本計画に基づき、上の丸保育所跡において、遺構の保存状況の確認や整備を進めていくため。
- 調査期間
令和5年11月14日～12月8日
- 調査面積
57.5m²
- 調査方法
遺跡の内容を確認するため、4か所に調査トレンチを設けて 遺構・遺物の有無、土層の確認を行った。



トレンチ配置図

T1

- 表土から約70cm下で地山を検出。
- 三木城に關するとみられる遺構は柱穴1基のみ。
- 東端際の法面直下において、近代以降とみられる溝を検出。
- 全面にわたって、近代及び児童館(上の丸保育所別館)建設時に掘削された可能性が高い。



T1 柱穴検出状況(東から)



T1 柱穴半裁状況(東から)



T1 全景(東から)



T1 完掘状況全景(西から)



T1 北壁土層断面(南から)



T1 近現代遺構完掘状況(南から)

T2

- 東端は保育所基礎コンクリートの抜き取り痕。
- 西半は近代以降に掘り下げられたとみられ、法面直下において溝を検出。
- 三木城の遺構の可能性があるものは、溝(S2)のみ。
- 全面にわたって、近代及び上の丸保育所建設時に掘削された可能性が高い。



基礎コンクリート抜き取り痕

T2 検出状況全景(東から)



T2 完掘状況全景(東から)



T2 南壁土層断面(北から)



T2 完掘状況(南西から)

T3

- 表土直下で遺構面を検出。
- 南側で遺構面整地土の可能性のある層（S1）を検出。
- S1より北側は、全面にわたって配管等による攪乱を受けていたことが判明。
→近代及び上の丸保育所建設・存続時に掘削された可能性が高い。



T3 検出状況（南から）

- 北端において、土坑(S3)を検出。針金等の新しい遺物とともに、多量の瓦・土師器皿・土壁・備前焼等が出土。
→近現代の地形改変の際に出土した遺物を集めて、焼いて埋めた可能性が高い。



T3 S3北壁土層断面(南から)



T3 検出状況(北から)



T3 完掘状況(北から)



T3 完掘状況(南から)



T3 完掘状況(西から)

T4

- 南端は、地表面直下において遺構面ベース土を検出。それより北側はT3同様に全面にわたって攪乱を受けており、配管等が設置されていたことが判明。
- 南端から約3m以北において落ち込み状の攪乱（S1）があり、特に北側においてガラス片等の近代以降の遺物とともに、多量の瓦・土師器皿・土壁・備前焼等が出土。



T4 検出状況（北から）



T4 掘削状況(北から)



T4 完掘状況(北から)



T4 完掘状況(南から)



T4 S1東壁土層断面(西から)



主な出土遺物



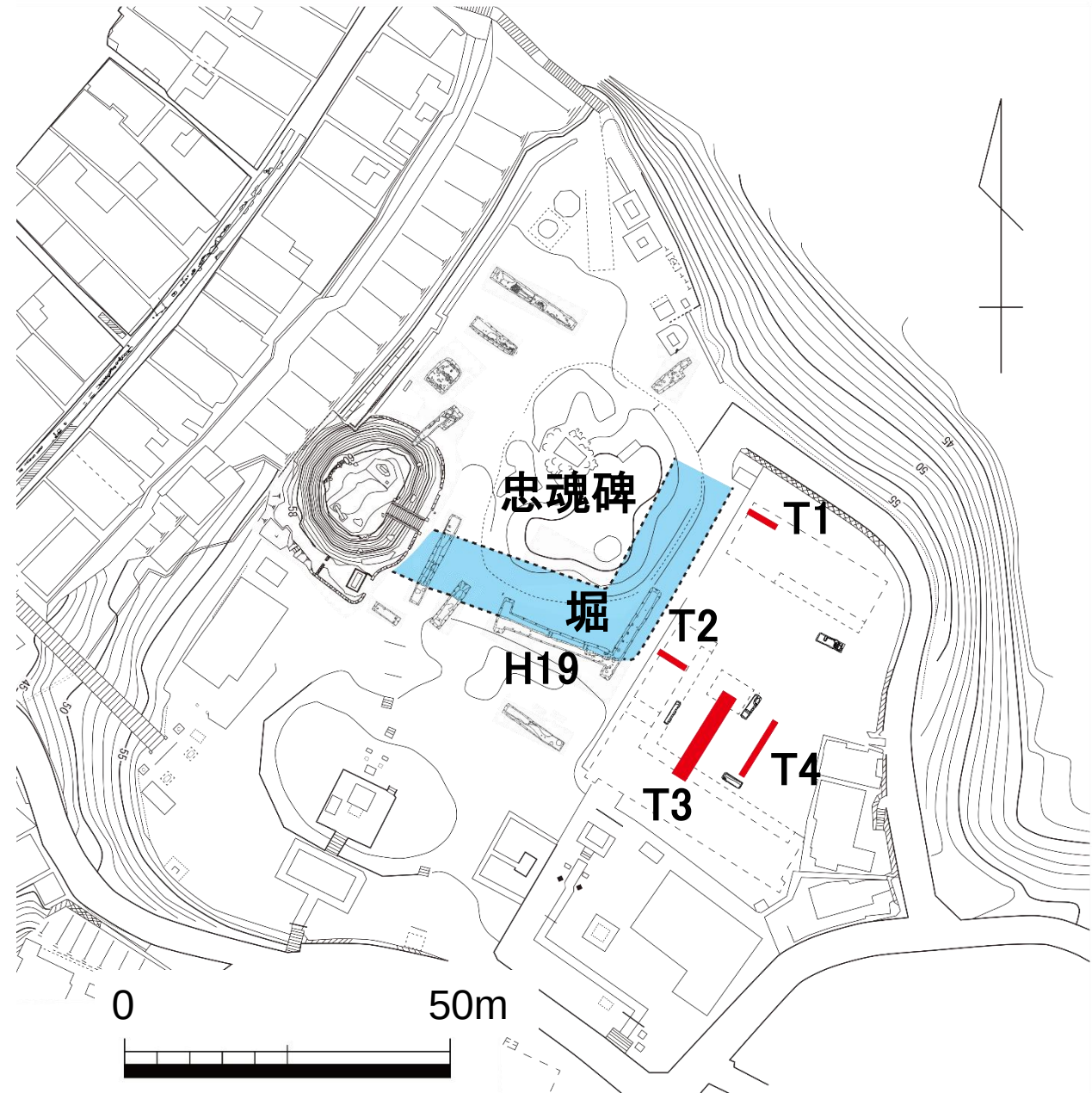
文字瓦 (T3 S3出土)



雁振瓦 (棟の最上端に載せる瓦)
(T3 S3出土)

3 まとめ

- 近現代における地形改変に伴い、遺構の残存状況が良くないことが判明。浅い遺構は削平を受けて消滅した可能性が高い。
- 平成19年度調査で検出された堀の東辺肩については、T1・2では検出されなかったことから、ここまで広がっていないことが判明。
- 主に16世紀後半頃の瓦や備前焼大甕の破片のほか、土壁片等がコンテナ(27リットル入り)9箱分出土した。この辺りに三木城の遺構や瓦葺き礎石建物が存在していたことは間違いない。



市指定史跡愛宕山古墳（下石野 5 号墳）の発掘調査について

- 1 発掘調査成果について
現地説明会資料のとおり
- 2 今後の計画について



2023 年度 2024 年 3 月 16 日 愛宕山古墳 発掘調査説明会資料

編集・発行 大阪大学考古学研究室



調査の概要

古墳名：愛宕山古墳（下石野 5 号墳）
所在地：兵庫県三木市別所町下石野
調査主体：大阪大学考古学研究室
協力：三木市教育委員会・市史編さん室
調査期間：2024 年 2 月 29 日～3 月 20 日

はじめに

大阪大学考古学研究室では、三木市教育委員会・市史編さん室の協力のもと、別所町下石野所在の愛宕山古墳の発掘調査を実施しています。愛宕山古墳は、美囊川と加古川とが交わる、交通の要衝に築かれた前方後円墳です。愛宕山古墳が築かれた古墳時代（3 世紀中ごろ～6 世紀）には、全国各地で古墳が築かれ、その総数は大小含め 16 万基以上とされています。その中でも愛宕山古墳のような大規模な前方後円墳は、当時の政治の中心である「ヤマト政権」との深いつながりを示すものと考えられています。

一方で愛宕山古墳では過去に墳丘部分を対象とした発掘調査はなされておらず、また築造時期の手がかりとなる埴輪資料もわずかししか得られていませんでした。そこで大阪大学考古学研究室では 2022 年度より、墳丘の構造や古墳が造られた時期の解明を目的として発掘調査を開始しました。今回は 3 ヶ年の計画のうち 2 年目にあたり、後円部の裾を明らかにする目的のトレンチ（南トレンチ）と、墳丘の段築（階段状に墳丘を形づくること）構造の解明を目的とした北トレンチの 2 か所を設定しました（裏面の図 3）。

発掘調査の成果

北トレンチの成果 北トレンチではその大部分で、赤みのある固く締まった土が検出されました。墳丘を作る際に施した盛土であると考えられます。この盛土斜面の途中には中ほどで傾斜が緩くなる箇所があり、平坦ではないものの、墳丘の斜面と斜面の間に巡るテラスにあたる可能性が考えられます（裏面の図 4）。またトレンチの南端付近では葺石の一部と考えられる人頭大の礫群が検出されました。ただし他の地点における石材の量などから、葺石は墳丘の全面ではなく一部にのみ施されていた可能性も考えられます。

南トレンチの成果 トレンチの北側では、東西方向に走る石列が 2.5m にわたって残存していました。石列が設置された土の特徴などから、この石列は墳丘構造の一部であったと考えています。通常はテラス面を設けて墳丘を階段状に区画しますが、愛宕山古墳の場合は少なくとも墳丘最下段は石列によって区画されていたものと考えられます（裏面の図 4）。

トレンチの南側では、こぶし大の礫が多く含まれる黄褐色の層（地山層）から、大きな礫を含まず赤みのある層への切り替わりが認められました。これより南では傾斜が緩くなっていることから、このラインが古墳の南側の端を示していると考えられます。

出土遺物 今回の調査では 70 点をこえる埴輪・土器の破片が確認されました。これらの

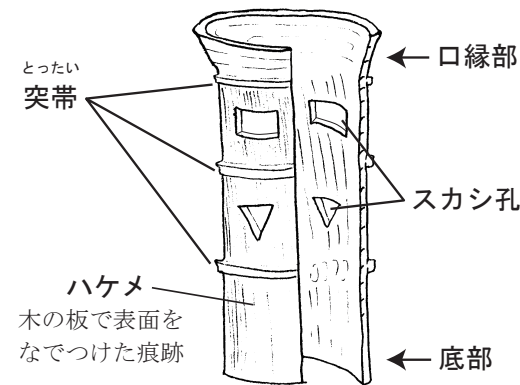


図 1 円筒埴輪の部位名称

多くは古墳築造当時に墳丘の上に立て並べられていた円筒埴輪（図 1）の一部で、直径 50cm 近い大型品です。突帯付近に連続した刻み目を施すという特徴的な技法が確認されています（図 2）。また底部の端部付近で面取り調整を施す特殊な技法を用いていることもわかりました。埴輪の特徴から、古墳が築かれた時期が古墳時代前期でも中ごろ（4 世紀初めごろ）以前に遡る可能性が高くなりました。今後埴輪の特殊な装飾方法の系譜を分析することで、遠隔地との交流を推定できる可能性があります。

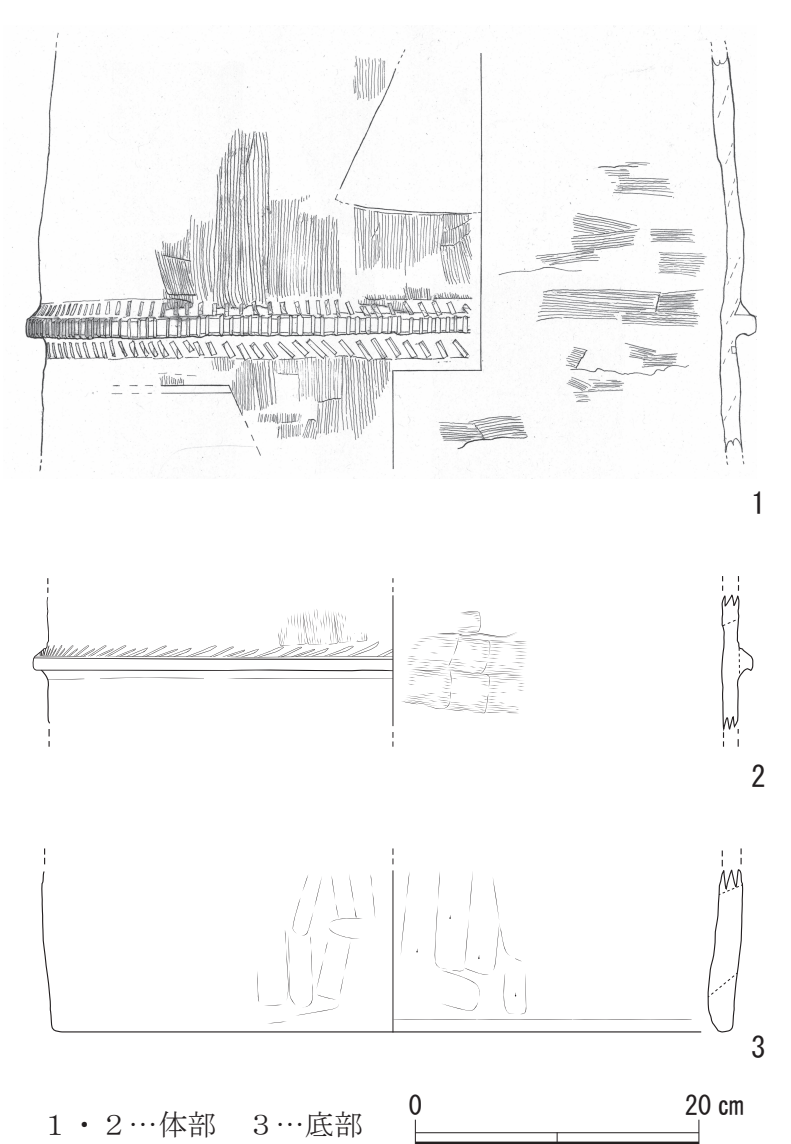


図 2 愛宕山古墳出土 円筒埴輪実測図

おわりに

今回の成果をまとめると、①後円部は 3 段に築かれた可能性が高いこと、②後円部最下段の石列による区画や特殊な装飾を持つ埴輪など、個性的な要素を多く持つこと、③埴輪の製作方法などから、これまで考えられてきたよりも時期が遡ると考えられること、となります。また、最終的な確定は前方部の調査を経てからとなりますが、墳丘全長 93m 程度となる可能性が考えられます（裏面の図 4）。加古川流域でも早くに築かれた大型前方後円墳として、当地域の古墳時代像を見直すうえできわめて重要な古墳であるといえるでしょう。

来年も引き続き愛宕山古墳での発掘調査を予定しています。また良い成果をご報告できるよう取り組んでまいりますので、引き続きのご理解、ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。最後に、今回の調査において多大なるご協力をいただいた三木市教育委員会、市史編さん室をはじめ、別所ふるさと交流館のみなさま、そして地元である下石野のみなさまに、改めてあつく御礼申し上げます。

今回の調査は、科学研究費補助金によるプロジェクト「初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価」ならびに『新・三木市史』考古資料編刊行に向けての調査プロジェクトに基づくものです。

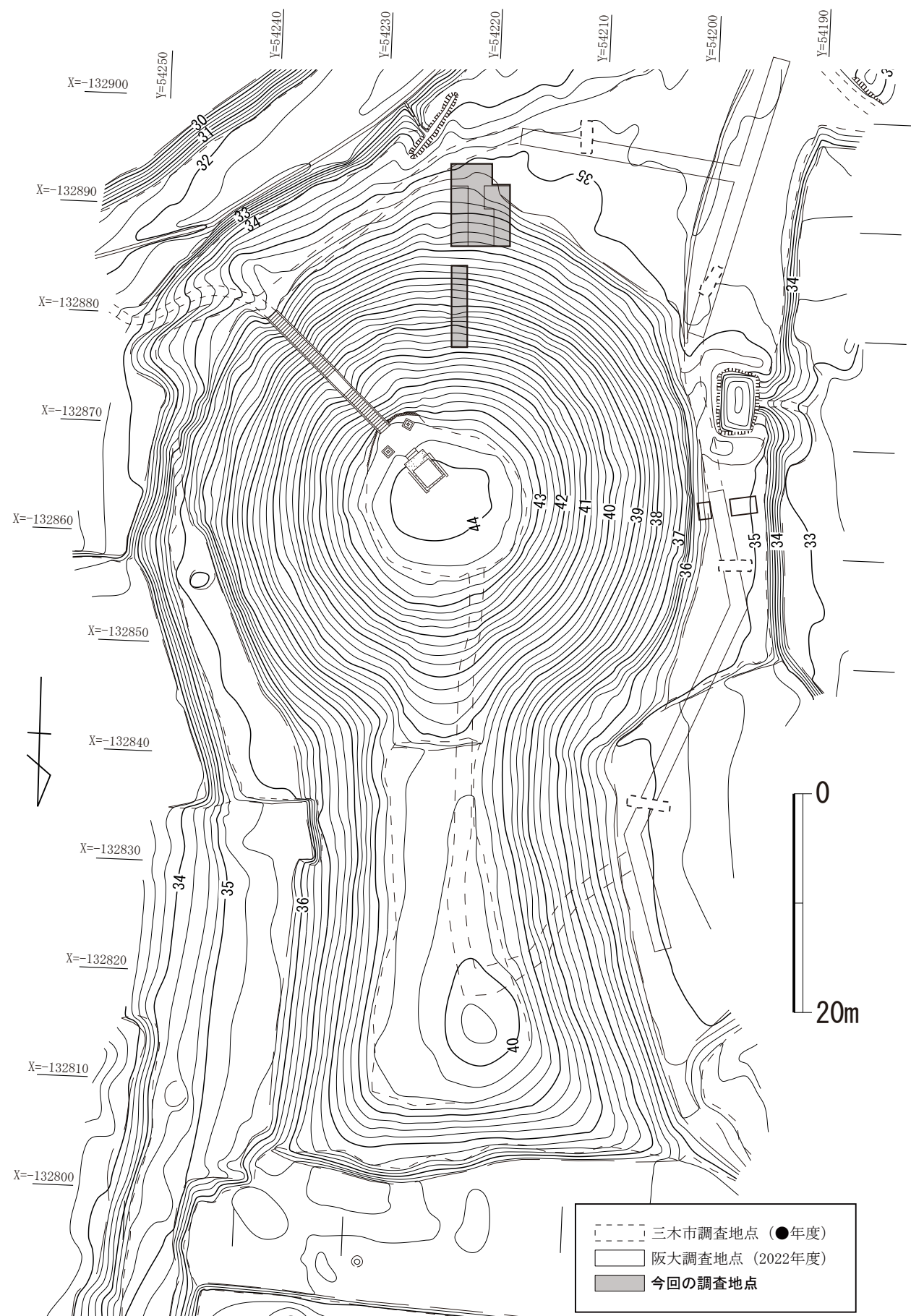


図3 愛宕山古墳 墳丘測量図
(大阪公立大学岸本直文研究室作成図に加筆)

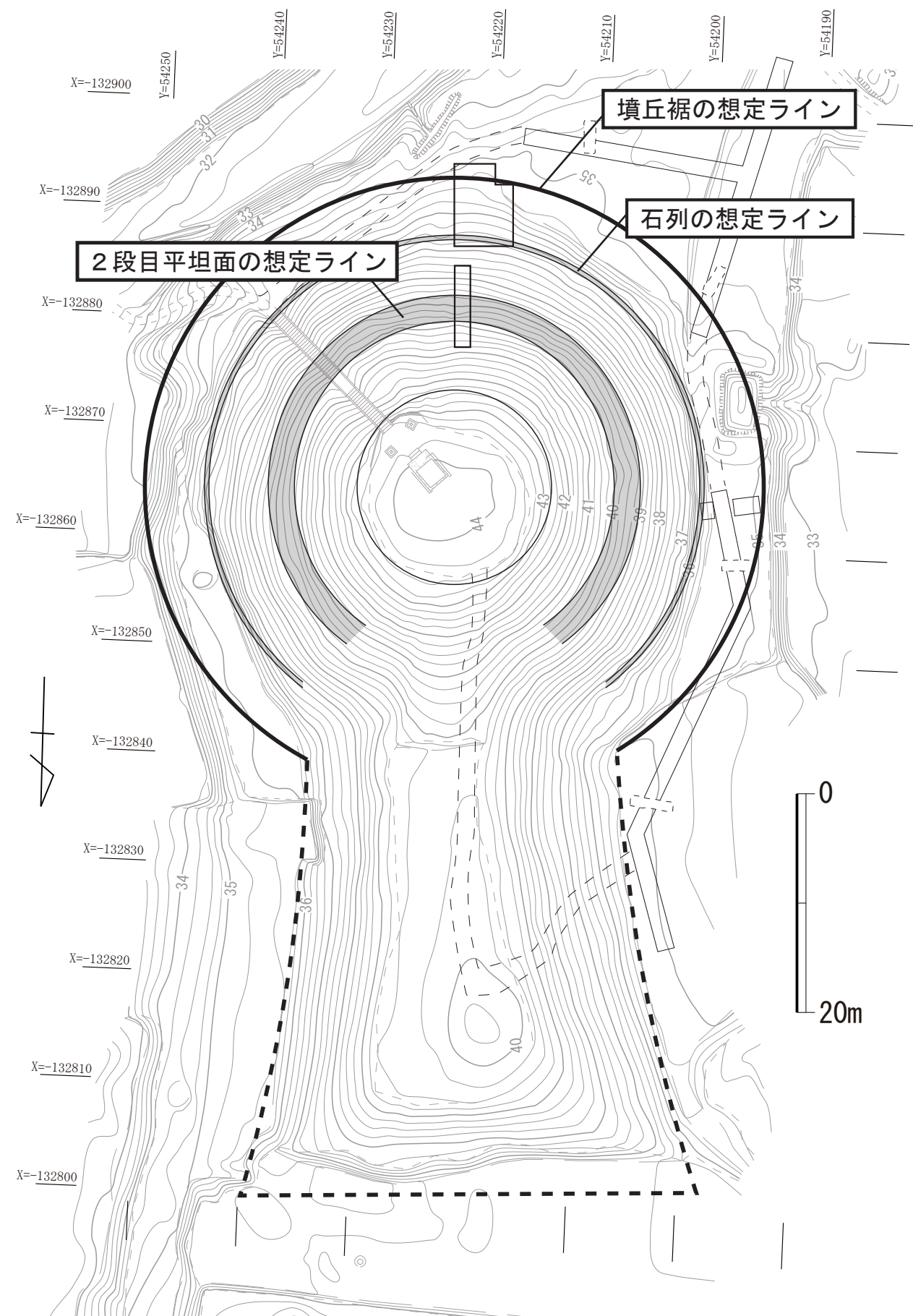


図4 愛宕山古墳 墳丘復元図



南・北トレンチ 全景（南から）



南・北トレンチ 全景
（南西から）



南トレンチ全景（北から）



南トレンチ全景（西から）



北トレンチ全景（南から）



北トレンチ全景（南西から）



北トレンチ 東壁土層断面(西から)



円筒埴輪



円筒埴輪(底部)

令和 6 年度文化財保護事業計画について

1 事業計画

事業名	内 容	実施日	実 施 場 所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・ 令和 6 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・ 令和 7 年度文化財保護事業計画について他	10 月頃 3 月頃	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 這田村法界寺山ノ上付城跡コース	4 月 17 日	這田村法界寺山ノ上付城跡他
	歴史ウォーク② 近世絵図で歩く三木城跡	5 月 19 日	三木城跡
	歴史ウォーク③ ホースランドパーク周辺付城跡コース	10 月 27 日	明石道峯構付城跡他
	歴史ウォーク④ 秀吉本陣跡コース	11 月 17 日	秀吉本陣跡他
	歴史ウォーク⑤ 愛宕山古墳・正法寺古墳コース	3 月 9 日	愛宕山古墳他
(2) みき歴史資料館	企画展① 写真で振り返る三木市の 70 年	4 月 20 日～ 6 月 23 日	みき歴史資料館
	企画展② 上田桑鳩展（仮）	7 月 27 日～ 9 月 29 日	みき歴史資料館
	企画展③ 市史編さん 10 年展（仮）	10 月 19 日～ 12 月 22 日	みき歴史資料館
	企画展④ 三木の窯跡（仮）	1 月 25 日～ 3 月 23 日	みき歴史資料館

	企画展特別講演会、歴史講座、体験教室	随時	みき歴史資料館
	歴史資料館協議会	10月頃 3月頃	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及び付城跡・土塁の整備	史跡危険木等伐採	随時	三木城跡及び付城跡・土塁
	発掘調査検討委員会	7月頃 11月頃	みき歴史資料館
	三木城本丸跡・二の丸確認調査	11月頃	三木城本丸跡・二の丸跡
埋蔵文化財発掘調査等	開発等にかかる緊急調査	随時	市内
埋蔵文化財維持・管理	遺跡管理除草作業 委託業者：(公社)三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安2号墳他
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4月～3月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施する。 調査ボランティア 4人	4月～3月	市内

2 講演等派遣事業

依頼元	内 容	講師	実施日	実施場所	参加者 (予定)
大阪府高齢者 大学校	武家政権の合戦地探訪科 「三木城籠城戦」	金松誠	9月20日	大阪府社会福祉会館	未定
大阪府高齢者 大学校	武家政権の合戦地探訪科 「三木合戦の	金松誠	9月27日	三木城跡 他	未定

	地を歩く」				
うれしの友の会	「新史料「羽柴家文書」から見た三木合戦」	金松誠	10月24日	兵庫県立嬉野台生涯教育センター	50人

3 図書の発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第39集 『筒井俊雄氏所蔵染形紙調査報告書』	三木市教育委員会	200部	3月31日

4 指定文化財に係る補助事業（市随伴）

事業者	指定文化財の名称	内容
伽耶院	伽耶院	・三坂明神社本殿の屋根の全面葺き替え（国庫補助） ・ナラ枯れ等の伐採（国庫補助） ・消防設備保守点検（県補助）
東光寺	東光寺本堂	・消防設備保守点検（県補助）
歓喜院	歓喜院聖天堂	・消防設備保守点検（県補助）
天津神社	天津神社本殿	・消防設備保守点検（県補助）
稲荷神社	稲荷神社本殿	・消防設備保守点検（県補助）

5 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
地域文化財総合活用推進事業	伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。 1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。 ・下町屋台保存会 支援内容 屋台用具水引幕の修理、	4月～3月	市内

	扇子のメッキ修理 ・大手町屋台保存会 支援内容 布団締・房の新調 ・東條町公民会 支援内容 法被の新調 ・御坂神社御弓神事保存会 支援内容 弓の新調 ・花尻自治会 支援内容 屋台用具屋根（隅木・雲板）の修理		
--	---	--	--

「六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め」の調査報告
と今後の方針について

1 文化財の名称

六社神社屋台 旧水引幕・高欄掛け・布団締め

2 調査報告

別紙のとおり

1 はじめに

1) 調査の目的

六社神社屋台旧布団締が岩田虎市による作品かどうかを判断し、三木市指定文化財候補にいれるかどうかを判断する。

2)調査方法

・拡大カメラによる調査

当該布団締めの各部位に他の岩田虎市作品と同じ糸や布が使われているかを検証する。

拡大カメラで撮影した倍率はそれぞれ異なるので、WindowsPC 付属ソフト・「ペイント」で比較する画像の拡大率を調節し、ほぼ同じ拡大率 1/10%の位までの概数)で比較する。

例:A画像 78.8 倍 B 画像 79.5 倍

$B/A = 79.5/78.8 = 1.0088 \cdots \rightarrow 100.9\%$ A 画像を 100.9%引き伸ばす

岩田虎市の作品以外で比較対象として用いるのは、明治三十年作の宿原屋台水引とする。六社神社屋台が明治三十六年（1903）に高欄掛けを、大正十五年（1926）に提灯を共に絹常が新調した、

・縫い方の調査

実地調査の記録写真、文献の写真を用いて他の業者の虎の刺繍、その他刺繍と比較する。絹常の作品では、虎の布団締めをみつけることができなかった。そこで、虎の刺繍が施された絹常の作品と六社神社屋台布団締の刺繍の比較、そして、六社神社屋台布団締と同作者の可能性がある朝来市元津屋台の提灯の比較を行った。

2 調査結果

1) 拡大カメラによる調査結果

ほとんど改修の手が入っていないと思われる六社神社屋台高欄掛を基準として、拡大カメラで分析を行った。

① 下地 紺色（綿か）

後世の補修がないと思われる岩田虎市作六社神社旧高欄掛裏地と、六社神社旧布団締の下地、岩田虎市の旧高欄掛を擁する石野屋台の布団締の裏地を比べた。六社神社屋台の高欄掛、布団締は同じ織りの

密度とはいえず、目視においても同様であった。その一方で生地を構成する糸の太さは同じに見える。一方、六社神社布団締と石野屋台布団締のものを比べると、糸の太さは近いものの、織密度は石野屋台のほうが密である。



写真1 生地と比較 左・六社神社旧高欄掛の裏地 中・六社神社旧布団締の下地 右・石野屋台旧布団締の裏地

しかし、一方、宿原の水引には同系統の色や材質の生地が見られなかった。細川・御酒神社布団締めの裏地は、色が六社神社高欄掛け裏地など岩田虎市のものと思われる作品にも同じ織り密度のものは見いだせなかった。

② 刺繍部分

刺繍部分はいずれも、カメラを押さえることによる糸の浮き上がりなどを調節できなかった。糸の太さ、糸を巻く金紙の幅はおおよそ下の通りであった。測定部分はそれぞれ、写真の黒線で示している。現在の金糸の掛け数は0.05mmごとで変わるが、いずれも推定される掛け数は11掛（0.75mm）程度のものである。金紙の幅も0.02mm～の誤差であり、布団締締めは数値でいえば絹常のものに近いといえるが、断定できるほどの誤差は見られなかった。

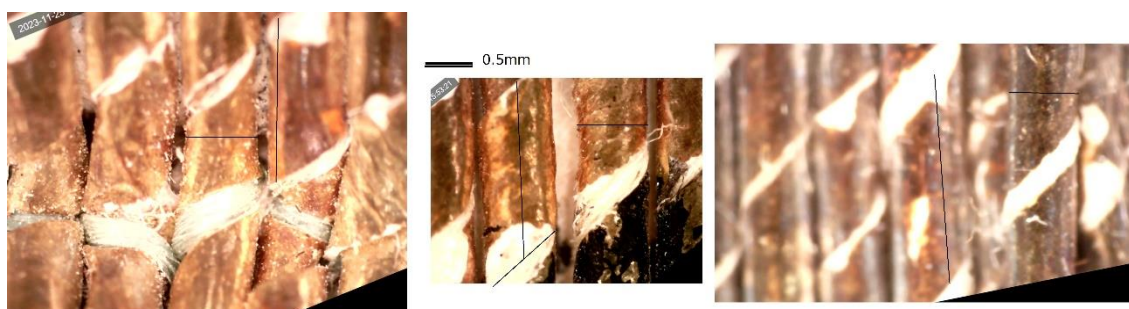


写真2-1 糸幅を計ったもの 左から六社神社旧高欄掛、六社神社旧布団締、宿原旧水引



写真 2-2 金紙の幅を測ったもの 左から六社神社旧高欄掛、六社神社旧布団締、宿原旧水引

	六社神社旧高欄掛	六社神社旧布団締	宿原旧水引
糸の太さ(mm)	0.76	0.74	0.74
	1.39	1.42	1.41

2) 縫い方の調査結果

① 岩田虎市と絹常の虎の刺繍との比較

布団締の虎は、眉が直毛で表現されていない点、目玉が半月状になっていない点は、絹常のものとも、上之段の岩田虎市のものとも異なる。上之段の岩田虎市のものとは、体の輪郭をこよりで、太く表現していること、黒い縞を墨で表現していることである。絹常の作品との共通点は見られなかった。また、下絵は全てことなるものと思われる。



写真 3 紀ノ川市上之段だんじりの緞帳幕。岩田虎市作ⁱ



写真4 六社神社屋台旧布団締め虎



写真5 絹常作の虎

② 元津屋台先代提灯との比較ⁱⁱ



写真6 元津屋台



写真7 元津屋台先代提灯（虎）



写真8 元津屋台先代提灯（龍）



写真9 岩田虎市の龍虎の提灯（神戸市吹上屋台）

虎は足の爪、黒い丸目玉、直毛による眉は六社神社旧布団締めに近い作り方をしている。さらに、体の縞が墨で入れられていること、こよりによりが体の縁を立体的に表現しながらも従来の絹常の作品よりも平面的な点は、上の段、六社神社屋台の布団締め、元津屋台旧提灯と共通する。

龍は、また、顔周りの鋸型の部分の表現が岩田虎市作の提灯などの龍の顔に類似している。

龍虎いずれも、絹常のものほどの立体感を伴っておらず作風は異なる物であり、岩田虎市の作風には近いものと言える。

3 六社神社屋台旧布団締めを中心とした、刺繍の文化財的価値

1) 水引幕

水引幕の顔は岩田虎市のものと見られる。絹常をはじめとする後世の補修が入っていると思われるが、どの部分がいつどのように補修されたのかは、今後の研究課題である。現在では殆ど使われていない、鱗の手法が使われている。

2) 高欄掛け

制作当時の姿を現在もとどめていると思われる。現在、岩田虎市のものと思われる作品は北播地域を中心にいくつか残るが、現役のものが多く、今後改修される可能性が高い。岩田虎市や初期の播州屋台刺繍の基礎資料となる。

3) 布団締め

刺繍自体が絹常のものではない可能性が高い。また、現存する岩田虎市の虎と技法が共通する。布団締の虎と比較的作風に近い元津屋台の先代提灯は、龍も岩田虎市のものと共通する技法が使われている。以上のことから布団締めも岩田虎市の作品である可能性が高い。

絹常のものであっても、今の絹常とは異なる表現を用いた作品であることは指摘でき、希少性、文化財的価値は高い。

よって、市指定文化財候補の中に、布団締めも含むべきである。

ⁱ 紀繡の屋ウェブページ <https://xn--1cr778h.jp/news/%E7%B4%80%E3%81%AE%E5%B7%9D%E5%B8%82-%E7%B2%89%E6%B2%B3-%E6%9D%B1%E7%94%BA%E5%9C%B0%E5%8C%BA%E7%B4%8D%E5%93%81/>

ⁱ 紀繡の屋ウェブページ <https://xn--1cr778h.jp/news/%E7%B4%80%E3%81%AE%E5%B7%9D%E5%B8%82-%E7%B2%89%E6%B2%B3-%E6%9D%B1%E7%94%BA%E5%9C%B0%E5%8C%BA%E7%B4%8D%E5%93%81/>

ⁱⁱ 写真 6.8.7 はいずれも、粕谷宗関『イキマの美 播州屋台学宝鑑』（2001、友月書房）49、203、204 頁の写真を使用した。